令和6年度　岡山県立笠岡高等学校　学校経営の具体的計画　　最終評価

本年度の重点目標	分掌	本年度の重点目標を達成するための課・年次での重点目標（めざす具体的な姿）	本年度の重点目標を達成するための課・年次内での具体的方策（教育活動）	評価基準	中間期の達成状況・課題（結果と成果）	総合評価（中間評価）	年度末の達成状況（結果と成果）	評価基準に対する評価	総合評価（最終評価）	本年度の課題と次年度の方策
1　可能性を引き出す個別最適な学びの促進	教務課	少人数・習熟度別授業と3つの学びのコース別授業を中心に個別最適な学びを実現し、学力向上を図る。	少人数・習熟度別授業や3年次は3つの学びのコースごとの授業を、教科と連携して効果的なものになるよう運用面で工夫していく。学力向上委員会と連携して授業改善についての研究を進める。	学校自己評価アンケートで評価。 (生徒)「選択希望や進路志望、習熟度等で講座を分けた授業は、あなたの知識の深まりや成績向上につながっていると思いますか。」 ①はい・そう思う　②だいたいそう思う ③あまりそう思わない　④いいえ・そう思わない ①＋②の割合(R5 92%、R4 89%、R3 90%) 4：90%以上、3：85%以上、2：80%以上、1：80%未満	・習熟度別・コース別授業が効率的に実施できる時間割を整備し、日々の時間割変更にも対応している。 ・授業力向上に向け、6月に互見授業週間を実施し、知見を教員全体で共有した。 ・今後、校内外で行われる公開授業等を通して教員全体で授業改善を図る。	B	後期には教科ごとの研究授業を実施し、研究協議を通して活発な意見交換を行った。また、年度末に外部講師を招いて指導力向上に向けた教員研修を企画中である。学校自己評価アンケートにおいても、該当項目８９%となり、昨年度より若干低下したが、高い水準を維持している。	3	B	時間割作成については、本年度は新しいタイプのクラス編成に対応できた。次年度3年次では文理混合クラスを作らないが、2年次で文理の人数バランスの関係から文理混合クラスを作ることが決定している。それに対応した時間割や講座の編成が課題である。習熟度別授業と3つの学びのコース別授業の併用の仕方についても検討が必要である。
	教務課	ICTの積極的活用を通して興味関心を広げ、生徒個々の学びが深化できるような支援を行う。	教科等と連携してICTを利活用できる環境を整え、主体的・創造的な学びを支援する。また、学習面におけるiPadの効果的な活用についての研究を行う。	学校自己評価アンケートで評価。 （生徒）「笠岡高校のICTを利活用した学習は、あなたの興味関心を深める、または、学習内容の理解を助けるものとなっていると思いますか。」 ①はい・そう思う　②だいたいそう思う ③あまりそう思わない　④いいえ・そう思わない ①＋②の割合（R5 88%、R4 77%、R3 80%） 4：90%以上　3：85%以上　2：75%以上　1：75%未満	・プロジェクターを5台更新し良好な授業環境を維持している。 ・後期にはDX事業関連の教室が整備される予定である。 ・不登校生徒のための遠隔授業の内規を整備したが、それを実施していくうえでの機材や人材不足が課題となっている。	B	現有する機器やシステムのアップデートを適切に行うことができ、年間を通して安定的に教育活動に利用できた。学校自己評価アンケートにおいても、該当項目８９%という高い結果であった。DX関連の教室が整備されたことは大きな収穫であった。不登校生徒の遠隔授業に向けては、課題は多いが当面運用していく体制は整えた。	3	A	教員用および生徒貸出用のiPad等の買い替えが必要だが予算的な目途がたっていない。DX関連の教室は整備されたが、機器を利用するための生徒のスキルや教員の指導力が不足しているので相当な研修が必要となる。
2　夢と志を育むキャリア教育の深化	進路課	ACTを中心としたカリキュラムマネジメントを推進し、未来開拓力を育む。	ACTプログラムでの学びと教科や特別活動での学びとの往還を意識した教育活動が展開できるよう、校内外での生徒の学びの機会の充実を図る。	学校自己評価アンケートで評価。 (生徒)「笠岡高校は、「総合的な探究の時間(ACT)」などを利用して、将来の進路や生き方について、考えを深め、主体的に進路選択ができるように、計画的に指導ができていると思いますか。」 ①はい・そう思う　②だいたいそう思う ③あまりそう思わない　④いいえ・そう思わない ①＋②の割合（R5 82%、R4 79%、R3 79%） 4：85%以上、3：80%以上、2：70%以上、1：70%未満	・本年度も夏季補習中の業務集中による教員負担を考慮し、夢ナビライブを自由参加にしたり、ACTの校外における行事計画を見直したり、教員が生徒と関わる時間を確保できるよう改善した。 ・教員側のACTに対する理念を共有することで、生徒が自身の興味・関心を掘り下げられるような活動になることを目指している。 ・外部資源を効果的に活用し、進路課内でよく連携をして取り組めた。1年次生の地域学では市役所との連携を密にし生徒主体の活動になるよう努めている。また、2年次生のテーマ探究では、大学の教授から班ごとにきめ細かいアドバイスをいただき、個人・グループにおける探究活動の深化を図ることができた。	B	・ACTの取り組みを通して生徒は協働力や表現力などの未来開拓力を伸ばすことができた。またこうした取り組みは地域や大学から高い評価を得ている。 ・学校自己評価アンケート（生徒）の該当項目の肯定的回答（①＋②）の割合は生徒87%であり、昨年度より5%向上した。	4	A	新たな取り組みを取り入れる際に、その目的や趣旨などを指導者側でよく共有しておくことが必要不可欠である。外部の方とメールをやりとりする際にはCcで本校の担当教員にも内容を共有するなどして、情報共有がスムーズに行えるようにする。ACT会にACT係主任が出席する形は来年度も継続し、教員間の連携を図る。
	進路課	キャリアカウンセリングを充実させ、個性と可能性を伸ばす進路指導を推進する。	生徒一人一人に応じたキャリアカウンセリングが効果的に行えるようにカウンセリングシステムを工夫・改善する。	学校自己評価アンケートで評価 (生徒)「笠岡高校は、面談などを利用して一人ひとりの生徒に応じた進路指導を行っていますか。」 ①はい・そう思う　②だいたいそう思う ③あまりそう思わない　④いいえ・そう思わない ①＋②の割合（R5 94%、R4 89%、R3 91%） 4：90%以上、3：85%以上、2：80%以上、1：80%未満	・進路資料や各種ガイダンス・LHR・面談週間などを通じて進路に関する情報提供を効果的に行うことができた。 ・京都大学の先生を招聘しての化学の実験講座を実施できた。参加生徒は大変良い刺激を受けたようである。 ・難関大学合同学習合宿については昨年度参加した生徒が志望と学力を大きく伸ばしたため、本年度も11月中旬の実施で計画している。また、「高い志」醸成プロジェクト合同学習会や東京大学訪問についても参加を予定している。	A	・難関大学合同学習合宿や「高い志」醸成プロジェクトを通じて生徒の意識が向上した。 ・校内外の学びの機会は年間を通じて積極的に提供できている。 ・探究活動の成果を発表する「探究フォーラム」などに積極的に参加し、良い刺激を得た。 ・学校自己評価アンケート（生徒）の該当項目の肯定的回答（①＋②）の割合は93%であり、昨年度より1%向上した。	4	A	昨年度からの指導の取り組みを継続しており、どのような生徒がどのような指導で合否が決まったのかを追跡し、知見を蓄え、適切な指導ができるシステムを構築しつつある。今後はそれをいかに生かしていくかが課題である。さらに、普通科進学校で学校推薦型選抜・総合型選抜指導の経験の少ない教員向けに研修への参加（対面・オンラインを含む）を案内していきたい。次年度も生徒の「志力」が育つ取り組みを企画・実施していきたい。

令和6年度　岡山県立笠岡高等学校　学校経営の具体的計画　　最終評価

本年度の重点目標	分掌	本年度の重点目標を達成するための課・年次での重点目標 （めざす具体的な姿）	本年度の重点目標を達成するための課・年次内での具体的方策 （教育活動）	評価基準	中間期の達成状況・課題 （結果と成果）	総合評価 （中間評価）	年度末の達成状況 （結果と成果）	評価基準に対する評価	総合評価 （最終評価）	本年度の課題と次年度の方策
3　主体性と豊かなつながりを生み出す活動の充実	総務課	生徒が主体的に広報活動に参画できる機会を設けるとともに、生徒目線の広報活動を推進する。	学校の魅力発信の機会を充実させ、広報活動の企画や運営において生徒が主体的に活躍できる場を設ける。	広報活動において生徒が参画した事業数で評価。 （R5 8件、R4 6件） 4：9件以上　3：8件　2：7件　1：6件以下	・広報活動において生徒が参画した事業数は6件で、予定通り実施できている。 ・オープンスクールと千鳥ゼミでは生徒主体の準備や運営ができた。 ・中学校母校訪問では、中学生向けのプレゼンテーションを生徒がタブレット端末等を活用して作成し、生徒目線で中学生に紹介することができた。 ・今後、生徒目線で魅力的な高校紹介動画を作成していく。	B	・広報活動において生徒が参画した事業数は、学校案内、千鳥だより、中学校母校訪問、オープンスクール、千鳥ゼミ、笠岡放送「そこが聞きたい」収録、学校説明会、学校紹介動画の8件であった。 ・11月の学校説明会では、在校生による座談会において、生徒目線で学校生活について説明を行い、参加した中学生・保護者から好評であった。	3	B	・予定していた広報活動は計画通りに進めることができたが、最終調査の進学希望者数が募集定員に達しなかった。 ・中学生やその保護者、中学校教員のニーズを把握した、広報活動の見直しが必要である。 ・広報活動については次年度も、生徒が主体的に参画できるよう活躍の場を確保し、生き生きとした生徒の姿をさまざまな形で発信する。特に動画コンテンツを充実させていきたい。
	教務課	国際社会で活躍できる人材の育成につながるグローバルな視点を育むための国際交流活動を推進する。	関係機関と連携してオンラインでの交流活動が可能な「姉妹校」または「交流校」の設定に向けて検討を行う。	年度内における、国際オンライン交流の企画立案および実施回数で評価。 4：オンライン交流を2回以上実施、3：オンライン交流を1回実施、2：来年度の実施に目途、1：来年度の実施も不透明	・オンライン交流が実施できそうな学校を選定し、マレーシアのケランタン大学と小グループでの交流を行った。 ・後期には参加生徒を全校で募集し、実施していく。	B	後期にマレーシアの大学生とのオンライン交流を予定していたが、交流希望時期が合わず話がまとまらなかった。現在、台湾の高校生との交流を企画中で、相手校の希望である3月の実施がほぼ決定している。	3	B	1回目の交流を行うまでの調整が困難であった。今年度に様々な検討を行ったことで、来年度は、オンライン交流に加えて対面交流も含めた活動の構想も生まれている。
	生徒課	ホームルーム活動や生徒会活動（各種委員会や学校行事等）への生徒の主体的な参加を促す。	各学校行事の実行委員を募り、生徒会執行部中心に組織化するとともに、多くの委員会や部が主体的に活動に取り組める体制を整える。また、事前打ち合わせや役割分担が効果的に行われるよう指導する。	学校自己評価アンケートで評価。 （生徒）「ホームルーム活動や生徒会活動（各種委員会や学校行事等）に、生徒が主体的に参加していると思いますか。」 ①はい・そう思う　②だいたいそう思う ③あまりそう思わない　④いいえ・そう思わない （生徒）①＋②の割合（R5 90%、R4 88%、R3 89%） （教員）①＋②の割合（R5 85%、R4 90%、R3 89%） 4：90%以上、3：85%以上、2：80%以上、1：80%未満 生徒と教員の指標で総合的に評価する。	・千鳥祭では生徒会執行部7名と38名の有志実行委員により、新たに部活動単位での模擬店出店や地域・他校と繋がる物産展やブースを、生徒が主体となって企画運営した。学校行事が活性化され、アンケートの結果も概ね好評であった。 ・各部とも、部長を中心とした生徒主体の活動として取り組むことができているが、中には人数確保が困難となり、活動に支障を来している部もある。今後更なる活性化と自主活動としての教育的価値を見いだす取り組みの工夫が必要である。	B	・生徒会執行部を中心に主体的かつ計画的な取り組みができ、学校行事が活性化した。 ・生徒会執行部を中心に校則の見直しに着手した他、目安箱の導入と効果的な運用など、生徒からの建設的な意見を募るための活動ができた。 ・学校自己評価アンケートの該当項目の肯定的回答（①＋②）の割合は、生徒は91%（昨年度より1ポイント向上）、教員は97%（昨年度より12ポイント向上）であった。 ・学校自己評価アンケートの部活動積極参加の項目では、生徒の肯定的回答（①＋②）は8割に上り、生徒自身は充実感や達成感を感じていることが窺える。	4	A	・アンケート結果は、今年度特に教員評価が大幅に上昇した。生徒会執行部や実行委員の主体的な取り組みが定着し、学校全体にその精神が浸透しつつある。今後は、更なる高水準での学校全体の主体性の育成に繋げていきたい。 ・部活動の積極的参加のアンケート結果で生徒と教員の評価に乖離が見られ、昨年度よりその差が一層顕著になった。生徒の意識は、主体的な活動の中で学業とのバランスを自らとり、充実感を味わっていると考えられる一方で、教員の意識としては活動が低迷していると感じる傾向にある。本校における部活動の位置づけを明確にし、その目的達成のために教員と生徒が一丸となって取り組む必要がある。
	生徒課	挨拶をはじめとしたコミュニケーションスキルを高め、好ましい人間関係を形成する能力の向上を図る。	生活委員会や生徒会執行部を支援し、生徒主体のあいさつ運動の実現を目指す。教員が率先して挨拶を日々励行しするとともに、日々の声がけにより、礼儀などの社会で生かせる基本的なコミュニケーション力の向上を図る。	学校自己評価アンケートで評価。 （生徒）「笠岡高校の生徒は、学校内や地域で、積極的に挨拶ができていると思いますか。」 ①はい・そう思う　②だいたいそう思う ③あまりそう思わない　④いいえ・そう思わない ①＋②の割合（R5 68%、R4 64%、R3 64%） 4：80%以上、3：70%以上、2：60%以上、1：60%未満 （教員）「笠岡高校は、積極的に挨拶をするよう指導ができていると思いますか。」 ①はい・そう思う　②だいたいそう思う ③あまりそう思わない　④いいえ・そう思わない ①＋②の割合（R5 45%、R4 66%、R3 43%） 4：80%以上、3：70%以上、2：60%以上、1：60%未満 生徒と教員の指標で総合的に評価する。	・生活委員会で定期的にあいさつ運動を行った。欠席者はほとんどなく、一定の評価はできるが形骸化している節もある。 ・教員が率先して挨拶を励行したり職員室入室時の礼法指導を徹底したりすることにより、日常的な挨拶についても徐々に改善されつつあるが、まだ活気が出てきているとまではいかない。	B	・生徒は日常において挨拶をする習慣が少しずつ身に付いてきている。 ・学校自己評価アンケート（教員）の該当項目の肯定的回答（①＋②）の割合は61%であり、昨年度より16ポイント向上したが、生徒の該当項目の肯定的回答（①＋②）の割合は昨年度と全く同じ68%のままであった。教員は昨年度より指導を行ったと考えているが、実際は効果が出ていないという結果であり、課題が残った。	2	B	・生徒の評価に向上が見られないため、次年度も生徒主体のあいさつ運動を継続すると同時に、生徒会執行部や生活委員を中心に生徒主体で新たな取り組みを考える。 ・挨拶に関して、教員の意識をさらに高めるよう努めると共に、生徒の意識向上を図る指導を継続する。